

## オーディオ実験室収載

### STAGE+を楽しむ(236)(HP 収載) —ウィンナ・ワルツの調べにのせて I—

#### 1. 始めに

前報(235)に引き続き、STAGE+のウィンナ・ワルツの調べにのせて I の演奏の試聴を実施します。

#### 2. 試聴音源

今回は、STAGE+のウィンナ・ワルツの調べにのせて I の演奏を選びました。  
ウィンナ・ワルツの調べにのせて I: ボスコフスキ&ヴィーンフィルコンサート  
ヴィーン少年合唱団とともに (1973年)

収録日: 1973年1月1日

ヴィリー・ボスコフスキはヴィーンフィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターを長らく務め、ニューイヤーコンサートの代名詞的な存在がありました。本映像ではシュトラウスをはじめとする、ヴィーンを代表する作曲家たちのワルツやポルカをお楽しみいただけます。ボスコフスキはシュトラウス一族と同様に、指揮とヴァイオリン独奏を行った人物でした。古き良き時代を追体験できることでしょう。「天使の声」とも評されるヴィーン少年合唱団の声もご堪能ください。

ソリスト:

ヴィリー・ボスコフスキ (ヴァイオリン)

演奏:

ヴィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ヴィーン少年合唱団

曲目:

ヨハン・シュトラウス1世 《ラデツキー行進曲》 op. 228

ヨハン・シュトラウス2世 ワルツ《加速度》 op. 234

ヨーゼフ・シュトラウス ポルカ・マズルカ《おしゃべり女》 op. 144

カール・ミヒヤエル・ツィーラー 《シェーンフェルト行進曲》 op. 422

ヨハン・シュトラウス2世 ワルツ《ヴィーン気質》 op. 354

ヨーゼフ・シュトラウス ポルカ・シュネル《休暇旅行で》 op. 133

ヨハン・シュトラウス2世 ワルツ《オーストリアの村つばめ》 op. 164

ヨハン・シュトラウス2世, ヨーゼフ・シュトラウス 《ピチカート・ポルカ》

ヨーゼフ・シュトラウス ポルカ・フランセーズ《鍛冶屋のポルカ》 op. 269

カール・ミヒヤエル・ツィーラー ワルツ《ヴィーン市民》 op. 419

ヨーゼフ・シュトラウス ポルカ・シュネル《騎手》 op. 278

ヨハン・シュトラウス2世 《トリッチ・トラッチ・ポルカ》op. 214(歌唱版)

ウィーン少年合唱団(合唱)

ヨハン・シュトラウス2世 ワルツ《美しく青きドナウ》op. 314



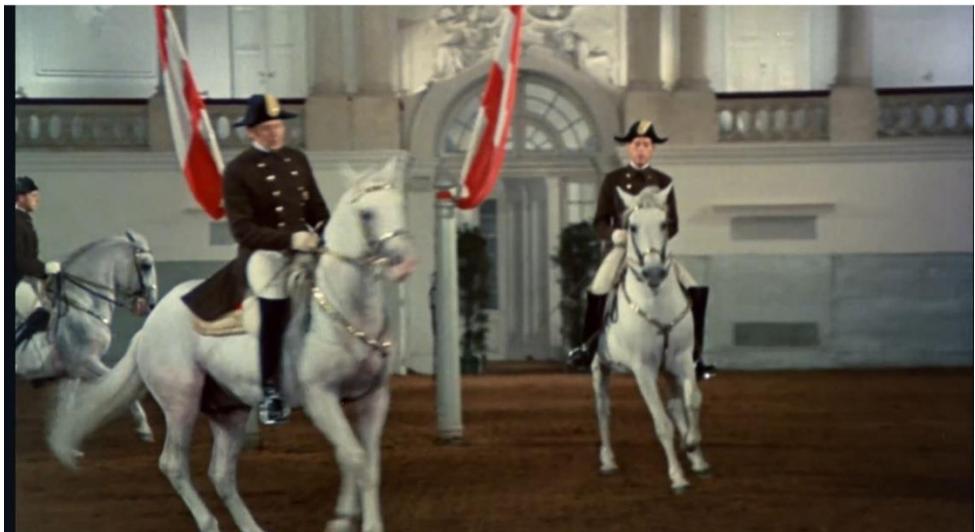
### 3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結しています。また、ルーター→スイッチングハブ間とスイッチングハブ→PC 間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、OPT ISO BOX の AC アダプターの DC ケーブルに FX Audio の Petit Susie Solid State を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

収録は 1973 年 1 月 1 日とあり、観客の姿も映像にありますので、ニューイヤーコンサートの収録かもしれません。後の編集によるのかも知れませんが、曲に関連するような映像が多数盛り込まれており、《ラデツキー行進曲》の手拍子がないなど、現在のニューイヤーコンサートの NHK の放映とは異なっていることがあります。

ボスコフスキはコンサートマスターで弾き振りを務め、現在のような指揮者を招聘するかたちではありません。

音質的には最新の収録に劣るところがありますが、まぎれもなくウィーンフィルのニューイヤーコンサートの演奏の音です。



#### 4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX を適用した結果、収録はかなり以前のものですが、まぎれもなくニューイヤーコンサートの雰囲気を伝えてくれています。

以上